



題字は前同窓会会長門馬直孝氏

原高同窓会会報

3月1日 金曜日
平成 25 年 (2013 年)

発行所
福島県立原町高等学校
同窓会

福島県南相馬市原町区西町 3 - 380
電話 (0244) 23 - 6196
印刷所 有限会社ライト印刷



祝

きょう第六十五回卒業式

ご卒業

原高史上最大の危機にも屈せず 伝統を繋いだ一六二名が卒業

本日、福島県立原町高等学校 第65回卒業証書授与式が挙行されます。新たに会員となる一六二名、並びに転学先で卒業を迎える皆様の「活躍」を心からお祈りします。

「情報力を高める」



同窓会会長
渡辺 一成
(十四回卒)

止められたかということでした。1mSvでも危険だという学者と低線量の被曝は健康に良いという学者もいます。原子力発電についても異なる見解があります。

私はいまだどちらが正しいか、間違っているかについて語るつもりはありませんが、このような異なる意見をどのように分析、評価するかという情報力が皆さんのこれからの生活において重要になってくるということをお願いいたします。

東日本震災と原発事故から二年目を目前にした本日、本校を卒業される皆さんに心からのお祝いを申し上げ、同時に困難な環境を乗り越えて卒業式を迎えられたことに対し万来の拍手を贈りたいと思います。

そんな中で私が心配したことは、放射能と健康について、専門家の方々から大きく異なる見解が出されていたことに対し、皆さんがどのように受け



校長 本多 光 弥

「思いを受け継いで」

本日、原町高等学校の体育館において、第六十五回卒業証書授与式を挙行できますことは誠に嬉しいことであり、実に感慨深いものがあります。震災以降、同窓生の皆様には大変ご心配をおかけし、また、物心両面に渡る多大なご支援を賜りました。特に、この難局にあつては、同窓会の皆様の力強いご支援にどれだけ救われたことかとつくづく思います。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

さて、この度の百六十二名の卒業生は、平成二十二年度に二百四十名の入学生でスタートし、その年度末にあの忌まわしい震災に見舞われた学年です。まさに七十余年の原高の歴史上、最大の危機の真っ直中にあつた生徒達であります。

平成 25 年度
原町高等学校同窓会総会
5月18日(土) 於『ラフイーヌ』(原ノ町駅前)
多数のご参加をお待ちしています。
お問合せ 原町高等学校同窓会事務局
TEL 0244(23)6196 FAX 0244(23)7909

また、震災前の一年生の時に、かろうじて上級生から受け継ぐことができた伝統や思い、そして、昨年度の卒業生があつた困難な中で見せた頑張りや原高生としての誇りを、今年度は、最上級生として下級生に伝えるべく、志を持って勉学に励むとともに、復活していくひとつひとつの行事や部活動、学校生活などに使命感を持って取り組んでまいりました。

厳しい社会環境下での旅立ちとなりますが、多くの先人達がそれぞれの時代を、創意工夫で生きてきたことを思い、持てる力を十分に発揮され、みどり多い人生を歩まれることを願ってやみません。同窓生一同を代表し、皆様の前途に幸多からんことを祈ります。